

令和 4 年 11 月 24 日

2023 年度分ベースロード取引市場(第 2 回オークション)  
に係る監視について

電力・ガス取引監視等委員会は、本年 9 月に日本卸電力取引所において実施された 2023 年度分ベースロード取引市場(第 2 回オークション)について「ベースロード市場ガイドライン(以下、「ガイドライン」という。)」に基づき、供出量、供出上限価格の観点から監視を行いました。

本日、第 2 回オークションに関する監視結果を取りまとめましたので、以下の通り公表します。

## 〔1〕 第 2 回オークション結果の概要

- 第 2 回オークションの約定量及び約定価格は以下の通り。
- 約定量は、北海道市場では約定なし、東日本市場で 3.1MW (年間 27,230MWh)、西日本市場で 207.0MW (年間 1,818,288MWh) であった。
- 約定価格は、東日本市場で 37.67 円/kWh、西日本市場で 25.11 円/kWh であった。

	約定量	約定価格
東日本	3.1 MW	37.67 円/kWh
西日本	207.0 MW	25.11 円/kWh

- なお、2021 年度第 2 回オークションと比べ、売り札平均価格の増加は 23.92 円/kWh であるのに対して買い札平均価格の増加は 15.09 円/kWh であった。

	売り札平均価格 <sup>※1</sup>	買い札平均価格 <sup>※1</sup>
2021 年度第 2 回オークション	12.73 円/kWh	9.08 円/kWh
2022 年度第 2 回オークション	36.65 円/kWh	24.17 円/kWh
前期比増減(2022 年度-2021 年度)	+23.92 円/kWh	+15.09 円/kWh

※1: 売り札平均価格及び買い札平均価格は、全エリアの注引量および注文価格の加重平均にて事務局作成。

## 〔2〕 第2回オークションの監視結果

- ・ 電力・ガス取引監視等委員会において、ベースロード市場に供出を行った大規模発電事業者の供出状況について詳細な分析を行うとともに、各事業者からその考え方等を聴取すること等により、ガイドラインに基づく取組がなされていたかどうか確認したところ、以下の通りであった。
- 各大規模発電事業者のベースロード市場における供出量はいずれもガイドラインで定める投入電力量を満たしており、問題となる事例は認められなかった。
- ベースロード市場における供出上限価格の計算にあたり、東日本エリアの大規模発電事業者のうち1社については、前回オークションから燃料費単価の見積り方法を変更し供出価格が上昇していたが、変更の適時性に関する客観的かつ合理的な説明が確認されなかったため、当該事業者に対して次回以降のオークションでの是正を求めた。なお、当該見積り変更による約定結果への影響は確認されなかった。
- その他の大規模発電事業者の供出上限価格について、ガイドラインに沿わない方法で設定している事例は確認されなかった。一方で燃料費の算定に関しては、価格変動リスクを非常に大きく見積り、供出上限価格ひいては供出価格が非常に高くなっている事例が確認された。

## 〔3〕 今後の対応

- ・ 燃料費の算定に関しては、各社の裁量の余地が大きく、供出価格への影響も大きいこと、実質的な売り惜しみにつながる可能性があることや、内外無差別性の確認が困難であることなど、様々な課題が認識されたため、制度の見直しを今後検討していく。

(以上)

(本発表資料のお問い合わせ先)  
電力・ガス取引監視等委員会事務局  
取引制度企画室長 東  
担当者:住田、鈴木、神田  
電話:03-3501-1552(直通)